

## 乳牛について 考えてみましょう

牛は大きく分けると、肉を利用する目的で飼育する肉用牛と、乳を利用する目的で飼育する乳用牛に分けられます。肉用牛は、日本で改良した黒毛和種・褐毛和種や、外国種のアバデインアンガス種・ヘレフォード種・ショートホーン種等の品種がいます。乳用牛は、外国種のホルスタイン種・ジャージー種・ブラウンスイス種やガンジー種等の品種がいます。

皆様におなじみの白黒模様の牛はホルスタイン種で、ヨーロッパ特にオランダで品種改良が行なわ

れました。ホルスタイン種は、乳量が多く、性格も温和なため飼育管理が容易で、寒さに強いなどの特徴があります。そのため、現在日本で飼育されている乳用牛の殆どが、このホルスタイン種で占められています。

乳用牛とはいえ、常に乳を出している訳ではありません。乳用牛が産出する乳は、子牛を育てるために泌乳するものですから、妊娠して子牛を産まないと乳は出ません。埼玉県で飼育されている乳用牛一頭が一年間に産出する乳の量は、平均でおよそ七千三百kg、牛乳パックで七千本以上を産出していることになりました。

牛は、草を主食として生活して

います。草は繊維質が多く消化しにくいために、牛は四つの胃袋を持つていることが知られています。一番大きな胃袋は第一胃と呼ばれ、成牛でほぼドラム缶一本分の容積があります。この胃袋の中では、無数の微生物が共生し、この微生物が活発に働くことで、内容物を発酵させ栄養源として吸収します。

この仕組みで牛は草だけを食べるだけで生活が出来るのです。しかし現在では、より多くの乳を泌乳させるために、栄養価の高い濃厚(穀物)飼料も給与しています。

雄牛の役割は、雌牛に子牛を産ませることですが、現在の酪農では、ほぼ一〇〇%人工授精によって繁殖しています。そのため、多



上：左先端にストローを付け精液を注入する精液注入器  
下：精液の入ったストロー

くの雄牛は去勢し肉用に飼育されています。

できます。残念ながら、牛の世界にはハーレムは存在しないことになりました。

以上、乳牛についての豆知識でした。